

災害公営住宅等の現状とコミュニティ形成支援について

1. 応急仮設住宅入居状況（令和2年3月31日現在）

(1) 入居戸数

（ ）内の数値はR1.9.30現在

総戸数		特定延長 (再々延長)	対象外	合計	左記内訳(居住地域別)				
					①市内に居住		②市外に居住		
					特定延長	対象外	特定延長	対象外	
		4 (10)	0 (1)	4 (11)	0 (1)	0 (0)	4 (9)	0 (1)	
被災場所	市内	4 (9)	0 (1)	4 (10)	0 (0)	0 (0)	4 (9)	0 (1)	
	市外	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)			
上記内訳 (居住施設別)	①プレハブ仮設		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	被災場所	市内	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
		市外	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)		
	②住田仮設(中上団地)		0 (0)	0 (1)	0 (1)			0 (0)	0 (1)
	被災場所	市内	0 (0)	0 (1)	0 (1)			0 (0)	0 (1)
		市外							
	③みなし仮設		4 (10)	0 (0)	4 (10)	0 (1)	0 (0)	4 (9)	0 (0)
	被災場所	市内	4 (9)	0 (0)	4 (9)	0 (0)	0 (0)	4 (9)	0 (0)
		市外	0 (1)	0 (0)	0 (1)	0 (1)	0 (0)		

(2) プレハブ仮設の状況

- ①最終退去 令和元年5月31日
・長洞仮設（被災場所：市内1名）
- ②仮設撤去・借地復旧状況
・地ノ森仮設撤去（R1年10月2日完了）
・長洞仮設撤去（R2年1月8日完了）
・大立仮設借地復旧（R2年3月31日返還）
・全37箇所への撤去、借地返還完了

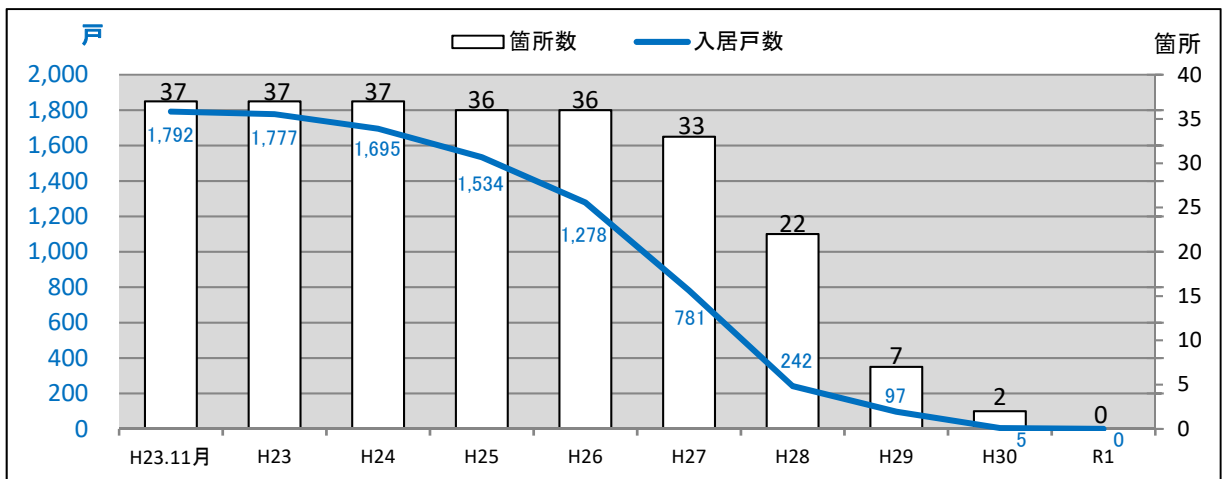
(4) みなし仮設(特定再々延長)の状況

みなし仮設 所在地	戸数	再建計画	
		再建種別	時期
盛岡市	2	災害公営住宅 (盛岡市南青山)	R3.3
紫波町	1		
県外(大阪府)	1		
計	4		

(3) 住田仮設の状況

- ①最終退去 令和2年3月30日

(5) プレハブ仮設入居状況の推移（年度末現在）



※1. プレハブ仮設の全整備戸数は1,811戸（うち県管理の福祉仮設住宅1棟10戸）

※2. 入居戸数のピークはH23.11月：1,792戸、4,531人（うち県管理の福祉仮設住宅9戸、9人）

2 災害公営住宅について（令和2年3月31日現在）

(1) 災害公営住宅の整備・入居状況

	団地数	整備戸数	入居戸数	入居戸数		入居者数	入居者数	
				うち一般	割合		うち一般	割合
市管理	22	539	501	60	12.0%	873	115	13.2%
県管理	3	262	227	-	-	419	-	-
計	25	801	728	60	8.2%	1,292	115	8.9%

※H30.11月から一般入居開始

(2) 入居者等のうち65歳以上、単身者等の割合

	入居者数	うち65歳以上		入居戸数	うち単身		うち単身・65歳以上	割合
		うち65歳以上	割合		うち単身	割合		
市管理	873	386	44.2%	501	269	53.7%	175	34.9%
県管理	419	151	36.0%	227	118	52.0%	64	28.2%
計	1,292	537	41.6%	728	387	53.2%	239	32.8%

(3) 団地会等の設置状況及び地域公民館との関係

	団地会等設置		団地会等未設置	
	地域公民館として独立	地域公民館に班として編入	地域公民館等に属さず(単独の行政区)	地域公民館に班として編入
市管理	2	9	1	10
県管理	2	1	0	0
計	4	10	1	10

(4) 入居者のコミュニティ形成支援

① 支援の概要

災害公営住宅における団地会等の役員体制の構築や運営サポート、住民活動や地域交流活動の活性化が図られるよう、大船渡市復興支援員（コミュニティサポーター）等の伴走型支援による恒久的なコミュニティの構築を目指し、平成27年9月から継続的な支援を行っている。

② 現状

- ・4名の支援員とアドバイザー（岩手大学特任助教）を委嘱して対応。
- ・これまでの支援により、団地ごとの役員体制の構築や規約作成のための支援が一段落し、外部の支援団体等との連絡調整も団地会等が自主的に対応できるようになってきた。
- ・一方で、運営が軌道に乗りつつある団地会等でも、役員の高齢化や成り手不足、モチベーションの低下などの課題が顕在化してきている。
- ・支援員は、住民が主体性を持って団地会等を維持・運営していくよう、意識の醸成や交流機会の創出などに注力しながら、令和3年3月までに自立することを目指して支援に取り組んでいる。

③ 今後の取り組み

- ・入居者同士の見守り体制構築の一環として、ラジオ体操やサロンなど、住民同士のつながりを深めるような機会の創出を図るとともに、支援員がイベント等へ参加することにより、入居者の生活状況等の把握に努める。
- ・コミュニティ形成の現状把握と、今後の取り組みの参考とするため、アンケート調査を行う。
- ・支援活動を通して把握した団地ごとの課題に対しては、随時、改善に向けた活動目標を設定しながら支援を行っていく。
- ・令和3年度以降の支援のあり方について、国や県等の動向を注視しながら検討を深めていく。

3 参考資料

(1) 復興支援員のサポート状況について

① 団地ごとの活動区分

活動区分	団地数	対象団地等（入居数：726戸）
積極的な支援の実施 （月2回以上訪問）	3	野々田(48)、県営上平(54)、県営関谷(45)
経過観察 （月1回以上訪問）	9	宇津野沢(19)、県営みどり町(126)、上山東(11) 田中東(19)、平5号棟(9)、蛸ノ浦(12)、 長谷堂東(53)、清水(22)、所通東(20)
経過確認 （2か月に1回以上訪問）	13	下館下(57)、盛中央(31)、赤沢(23)、川原(28)、 平南(50)、泊団地(6)、沢田南(19)、後ノ入南(4) 山口西(13)、大洞(9)、下欠東(32)、杉下(9)、 崎浜(7)

② 支援実績

	訪問回数	訪問回数		
		相談対応	交流機会創出	その他
訪問件数	438回	108回	171回	159回

ア 相談対応 …………… 団地会等の運営、規約作成に関する相談等への対応

イ 交流機会創出 …… ▶ 単独では健康維持の運動やお茶会等が多い。運動や芸術鑑賞等とお茶会やランチとの組み合わせが増え、講演のみの要望はない
▶ 具体的な内容は、健康体操や食生活改善などの健康づくり事業（市主催）のほか、陽だまりサロン（市社会福祉協議会）、ランチサロン（カリタスジャパン、絆プロジェクト）等
▶ 住民の参加率は、3割程度

ウ その他 …………… 団地会等の役員や入居者等からの情報収集、役員会への出席等

(2) コミュニティー形成に係る団地内の概要

① 25団地のうち、約6割を占める20戸程度またはそれ以下の規模の団地は、地域公民館の一つの班として位置づけられ、地元の入居者も多いこと、また、ラジオ体操やお茶会、健康体操、各種イベント等への取組により、団地内の交流はもとより、地域との協力体制や連携も整っており、コミュニティーが比較的安定している。

② 50戸程度以上の団地では、行政区や地域公民館として独立している場合が多いが、役員改選によって引継ぎが上手く行かず自治会の運営が不安定になったり、新たな組織体制（会長を無くして各階班長による共同体制）での運営にチャレンジするなどの動きもあり、継続的なサポートが必要。

③ 集会所を上手く活用し、地域との交流の輪を広げている団地もあるが、一方で、利用や管理方法について、規定の作成などの支援を要請されるケースもあり、団地ごとの状況に応じて対応している。

参考資料：「岩手県被災地コミュニティ支援コーディネート事業」における
 取組事例集『コミュニティ支援のすゝめ』から抜粋
 (令和2年5月岩手県発行)

Yamada

Otsuchi

開催レポート

山田町・大船渡市 コミュニティ支援員座談会



親身なアドバイスも! 闊達な意見交換の様子

2017年からコミュニティ形成支援員を配置して災害公営住宅や防集団地の支援を行っている山田町。支援員から活動が深まるにつれて支援の難しさ・悩みを感じる場面も増えてきているという声がありました。そこで、応急仮設住宅の時代から継続してコミュニティ形成に携わってきた大船渡市の伴走型支援員の皆さんからセンパイとしての知恵を学ぶため、2019年11月に意見交換会を開催しました。現場で活動する人々を悩ませる「あるある」事例に対し、実践を通じた学びをお話していただきました。

Q1 色々な人にイベントや地域行事に出してほしいのだけど…

▶ 地域清掃は参加者が多い傾向にあるので、そこで住民さん同士が顔見知りになることも少なくありません。団地全体よりも**まずは各階で知り合いになる**ところから。ちなみに、清掃に参加できない場合にペナルティとしてお金を払うという団地もあります。高齢者の方もそのほうが気兼ねしないという配慮でやっているようです。

▶ **共益費などの話題は関心が高い**ので住民さんが集まりやすいです。また、**高齢の方は行政から文書を出してもらう**と参加してくれやすい。ここは集まって欲しいという時は役所の協力も必要です。

▶ 最初は私達もイベントに出てきてもらおうと躍起になっていただけ、**参加は本人の自由**。住民同士が**コミュニケーションをとれていて状況を把握できていればよし**としています。「今日あの人は病院だから来れないのよ」ということを参加した人たちが把握していればいい。私達もそう思えるようになるまでには時間がかかりました。また、来な

い人のことを住民が悪く言い始めた時には、そういうことではないのよと言聞かせることも大事です。

▶ イベントや行事への参加は**住民が住民を呼ぶようになるのが理想**です。ある団地でやっているラジオ体操も最初は参加者が1人だったのが、5人、6人と口コミで増えました。人が来ないから**すぐにやめるのではなく、続けていく**ことも必要です。イベントも特定の人の得意なことだけに偏らないように配慮しています。

Q2 自治会の役員さんが頑張ってるけど疲れてこないかしら…

▶ コミュニティのキーパーソンが疲れてしまうのは共通の問題です。やはり**相談できる人**がコミュニティの中にいるといい。支援者ではなく、住民で想いや悩みを吐き出せる相手。

▶ 辞めたいという相談があったときは**まずは傾聴**。辞めたい理由を把握するところから始めます。会長さんが一人で頑張っていて辞めたいとなっていた自治会では、役員さんに会議に出席してもらえるように働きかけをして協力いただき、

継続につながりました。役員の男女比が偏ってしまうと参加しづらい場合もあります。退去などで辞めざるを得ない場合には、できるだけ次の候補を選んでもらうというルールとした団地もあります。

▶ 自治会の仕組みについても、枠にはめすぎると役員の負担になってしまいます。総会をやらなくても良いところもあるので**団地ごとの状況に合わせて変えていく**のが良いのでは。

▶ 外部支援者から言われるのではなく**住民さん同士で話し合う**ことが大事だと思っています。そのためには役員以外にも意見を言ってくれるような人を見つけて話し合いの場に来てもらうように働きかけることも必要です。意見の内容が立派なものじゃなくても、意見が出ることに意味があると思います。

Q3 他の自治会でやっている工夫を取り入れてもらえるといいけど…

▶ 各地域の自治会等の**活動事例をサポーター便りという形で毎月紹介**していました。自治会役員さんや住民さんは他の団地がどのように活動しているか関心を持っています。私達がこんなことしたらどうですかと言葉で話すよりも具体的にイメージできるし、その場にいらない人達にも伝わりやすい。そして、うちもサポーター便りで紹介してほしいと自治会活動に取り組む動機づけにもなっていました。私達もサポーター便りを渡しに行くことが団地の状況を聞ききっかけにもなっていました。



サポーター便りには「ここだけ」のような独自性を強調して他の地域を刺激する工夫も

まとめ

沿岸の支援員同士の交流を目的とした会は今回が初めての試みでしたが、ともに地元住民であり支援員でもあることから同じ課題を感じる部分が多く、双方に有意義な機会となったようです。改めて感じるのは、**励まし合い・学びあう仲間の大事さ**です。コミュニティ支援は達成感を感じづらいと言われますが、同じ目標に向かって進む仲間がいるからこそ元気に、前向きに取り組んでいけるのではないのでしょうか。定期的な意見交換を行いたいという声もありましたので今後も継続していければと思います。



行政担当者も参加してくれました

Q4 地域が主体的になるには、どう支援員として接するのがいいんでしょうか…

▶ 最近では、自治会主催のお茶っことに参加するときには**あえて手伝わない**ようにしています。私達はあくまでお客さん。皆さんのイベントだよというのを意識してもらうように。最後の片付けまでいることはほとんどありません。「もうちょっといたら」とか「最近来ないねえ」と言われても「全部の団地を見てるのでごめんね」と言ってサッと移動。いずればなくなる存在なので、**支援者に依存しすぎない**よう意識しています。

▶ 自治会の話し合いも、議題を見て今回は行かないというのを担当で話し合っ決めて。参加しないけれども大事な内容については前後に役員さんなどと話をするようにしています。

▶ 団地内の人間関係の話題には「そんなのねえ」くらいで聞き流すようにしています。また、片方の状況だけでなく、両方の状況を把握するようにしています。**同調はしないで中立の立場**にいることが大事で、あちらの方にばかり行っていると捉えられないように気をつけています。住民さんから個人的に話したいと言われる時も、自宅ではなく集会所で聞くようにしています。

▶ 答えがない仕事なので達成感を感じづらいところはあります。でも住民同士、コミュニティがうまくいけばいいから、**自分たちは嫌われてもいい**と思っている。すぐには楽しく思えないかもしれないけど、そういう気持ちになれば問題が起こっても次は何が来るか!とワクワクできます。